

# 園長だより NO44

年の瀬を迎え何かと気ぜわしい毎日ですが子ども達との生活にはこころのゆとりが大切です。気ぜわしい中にも周囲に気づかい、自身の行動にも計画性をもって取り組みたいものです。

## 園庭の柚子（ゆず）の木

園庭の隅に柚子の木があります。ここ数年、実をつけるようになってきました。徐々にですが実りの数も増えています。

手入れもされず、これといった栄養も与えられず、あまり良い土壌でないところで、しく、しくと育ってきました。

現在、4mぐらいに育ちてっぺんに実をつけているので、なかなか関心をもってもらえません。

ゆずの木にもし感情があつたら、どんな話がきけるのだろうか

「みんな みて みて きづいて」  
「ぼく（わたし）のことを いろいろと知って」 と猛烈なアピールをするのか  
「みんなのことをそっとみているよ」  
「げんきな すがたをみられことが うれしいんだよ」 と保育園のご神木となり、

見守り続けているのか  
本来、柚子の木の感情などを知る由もないが  
少しは木の気持ちがあるならば感じ取ってあげたいものである。

柚子とは私たちに  
にとって、たいへん、なじみの  
ある果実です。



実を加工して味わったり、さわやかな香りを楽しんだり、湯船にいれたり色々な形で生活に取り入れています。

では、園の柚子の木はどうでしょう、数年前に収穫した実を調理してジャムを作ったことはありますが 大半は小鳥たちが食することになっていました。

## 大人の感性がにぶっている

私を筆頭に言えることだが子ども達の世界にしながら、子ども達のいきいきと新鮮で毎日の生活での気づきや発見、驚きや感動する心を感じる力がにぶっているように感じる。

みかたや感じ方を変えてみることで保育園で育っている柚子の木は子ども達への心を育む大切な贈り物であると思える。

ある朝、たよりに掲載する画像を撮影しに柚子の木に向かう、登園してきた2人の女の子がそばにきて「何してるの なにやって

るの？」と質問攻めにあう、朝早く、木の撮影をしているとは何ごとか 怪しいとも思ったのだろうか。

「何しているか わかるかな」と問いかけてみると「木の写真とってるんでしょ」  
じゃあ 「なんでとっているのでしょうか」と問うてみると「黄色い実がなっているから」と、しばし短い時間だが柚子の木について、あれこれとはなした、そして自慢げに「園長 しってる？ お風呂に入れるんだよ」と言い残し、足早に保育室に向かっていった。



来年はドラム缶風呂で柚子湯に入ろうかな

## 子どもの感じるころは無限大

子ども達は様々な事象に対して、神秘さや不思議さに目を見張る感性を養っている最中、逆に私たち大人は↓養ってきたものが鈍りだしている時期、

私たち大人は柚子の魅力はさわやかな香り、香りを楽しみながらお茶やお酒にいれて飲むとホッとほっこりする、酸味が強く生食に向かないので加工しましょうとか柚子を便利な商品に考えがち、「なんで黄色なのかな？」  
「なんで こんな形なの」 「小鳥さんがよってくるのはなぜ」などとは到底、思うこと、感がることもない。

子ども達は単純な不思議発見もあるがもっと、もっと五感をつかって感じているいる場面に出会うこともあります。

小鳥たちが実を食しにチョン、チョンとつつき、実が割れだすころに「なんだか いい匂いがするね」と心地よさを感じている場面に出会うこともあります。

砂場の遊具を持ち出し柚子の木の下で遊び始めることもあります。

大人は単に袋小路になっている場所で子ども達が遊んでいると思うのだけれど 実はいい匂いにつられて、心地よさを感じながら遊んでいるのであった。

鼻炎の持病を持つ私には到底、感じられないかすかな匂いにも敏感な子ども達、心地よく感じる匂いに誘われ、心地よく遊んでいる子ども達をみて、少々、大げさに言うが身近な自然をすんなりと生活に溶け和せられるのだと、つくづく、子ども達の感性には驚かされています。

## ほっと一息

新しい年を迎えるまで あと数日となります。忙しい毎日から少々の開放、感度の鈍った感性をもう一度、自然な状態へ、短い休暇ですが身も心もリフレッシュしたいものです。令和元年、残り少なくなりましたが、子ども達とたくさん、たくさん、遊びます。

( 園長 廣部 信隆 )